

# 昭島市 市民意識調査

## 概要版

市民意識調査概要版は、平成23年10月に実施した「昭島市 市民意識調査」を要約したものです。

### < 調査の概要 >

- (1) 調査地域……昭島市全域
- (2) 調査対象……昭島市在住の満16歳以上の個人
- (3) 標本数……2,000人(男女各1,000人)
- (4) 抽出方法……昭島市住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法……郵送配布、郵送回収
- (6) 調査期間……平成23年10月17日(月)～平成23年11月7日(月)
- (7) 有効回収率……59.2%

### < 調査項目 >

- |               |             |
|---------------|-------------|
| (1) 定住意向      | (7) 都市景観    |
| (2) 暮らしの満足度   | (8) 少子高齢化   |
| (3) 災害対策      | (9) 広報      |
| (4) 日常生活      | (10) 情報化    |
| (5) 地域活動・生涯学習 | (11) 男女共同参画 |
| (6) 環境        | (12) 市政・市役所 |

#### 本概要版を見る際の注意事項

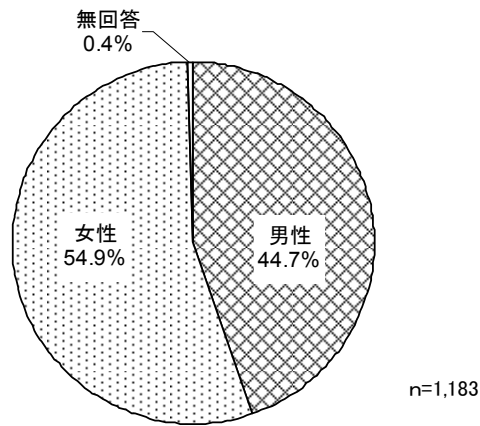
- (1) 集計は小数第2位を四捨五入して算出した。したがって、数値の合計が100%にならない場合がある。
- (2) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数nとして算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (3) 本文やグラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (4) n (Number of Cases の略) は比率算出の基数であり、100%が何人の回答者数に相当するかを示す。

平成24年2月

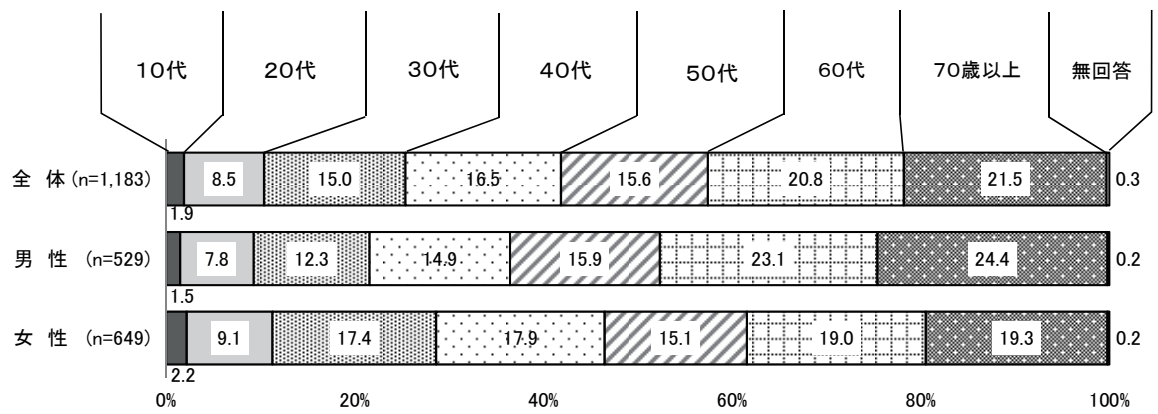
昭島市

< 回答者の属性 >

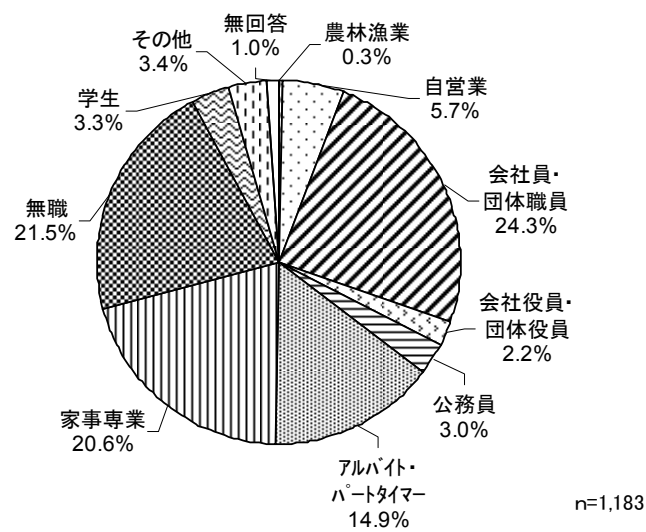
◆性別



◆性・年代

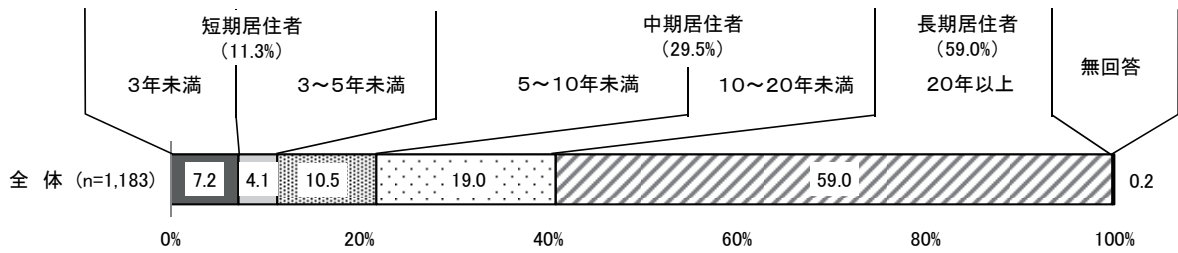


◆職業



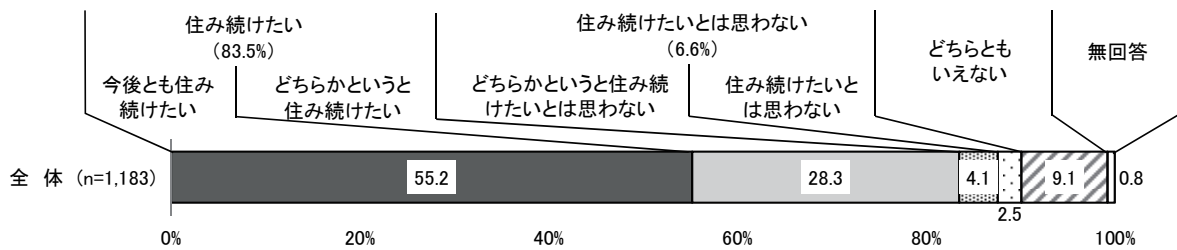
# 1. 定住意向

## (1) 定住年数



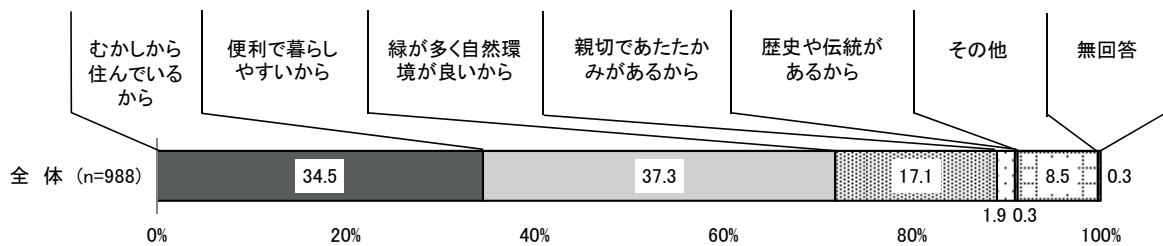
・「3年未満」(7.2%)と「3年～5年未満」(4.1%)を合わせた『短期居住者』(11.3%)が1割を超え、「5年～10年未満」(10.5%)と「10年～20年未満」(19.0%)を合わせた『中期居住者』(29.5%)が約3割となっている。「20年以上」の『長期居住者』(59.0%)は6割近くとなっている。

## (2) 定住意向



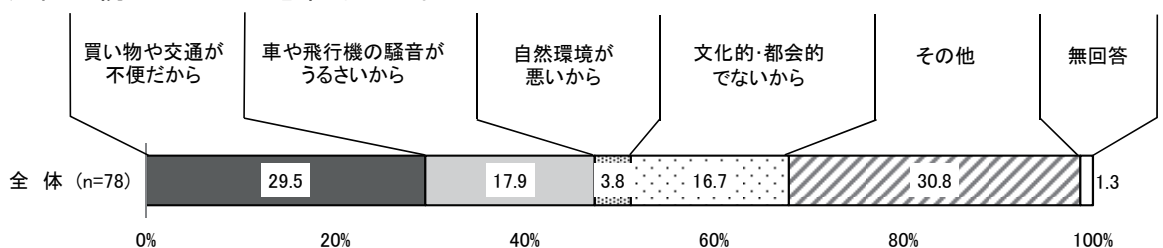
・「今後とも住み続けたい」(55.2%)と「どちらかというに住み続けたい」(28.3%)を合わせた『住み続けたい』(83.5%)が8割以上となっている。また、「どちらかというに住み続けたいとは思わない」(4.1%)と「住み続けたいとは思わない」(2.5%)を合わせた『住み続けたいとは思わない』(6.6%)と、「どちらともいえない」(9.1%)が1割未満となっている。

## (3) 住み続けたい理由



・「便利で暮らしやすいから」(37.3%)が4割近くと最も多く、次いで「むかしから住んでいるから」(34.5%)、「緑が多く自然環境が良いから」(17.1%)などの順となっている。

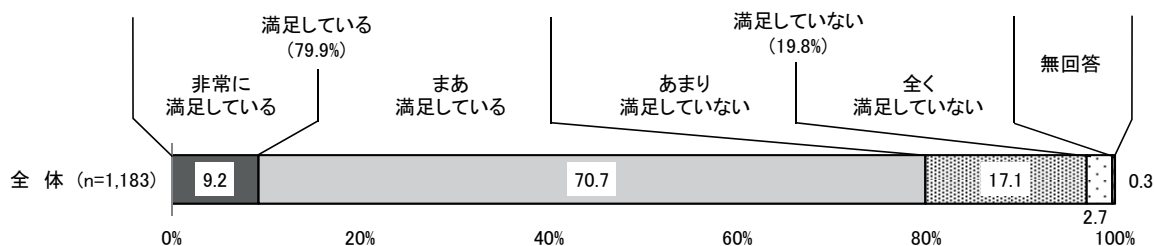
## (4) 住み続けたいとは思わない理由



・「買い物や交通が不便だから」(29.5%)が約3割と最も多く、次いで「車や飛行機の騒音がうるさいから」(17.9%)、「文化的・都会的でないから」(16.7%)などの順となっている。

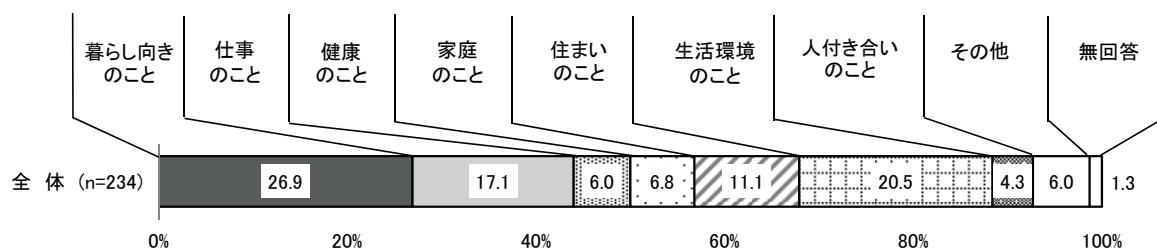
## 2. 暮らしの満足度

### (1) 暮らしの満足度



・「まあ満足している」(70.7%) が 7 割と最も多く、「非常に満足している」(9.2%) を合わせた『満足している』(79.9%) が約 8 割となっている。一方、「あまり満足していない」(17.1%) と「全く満足していない」(2.7%) を合わせた『満足していない』(19.8%) が約 2 割となっている。

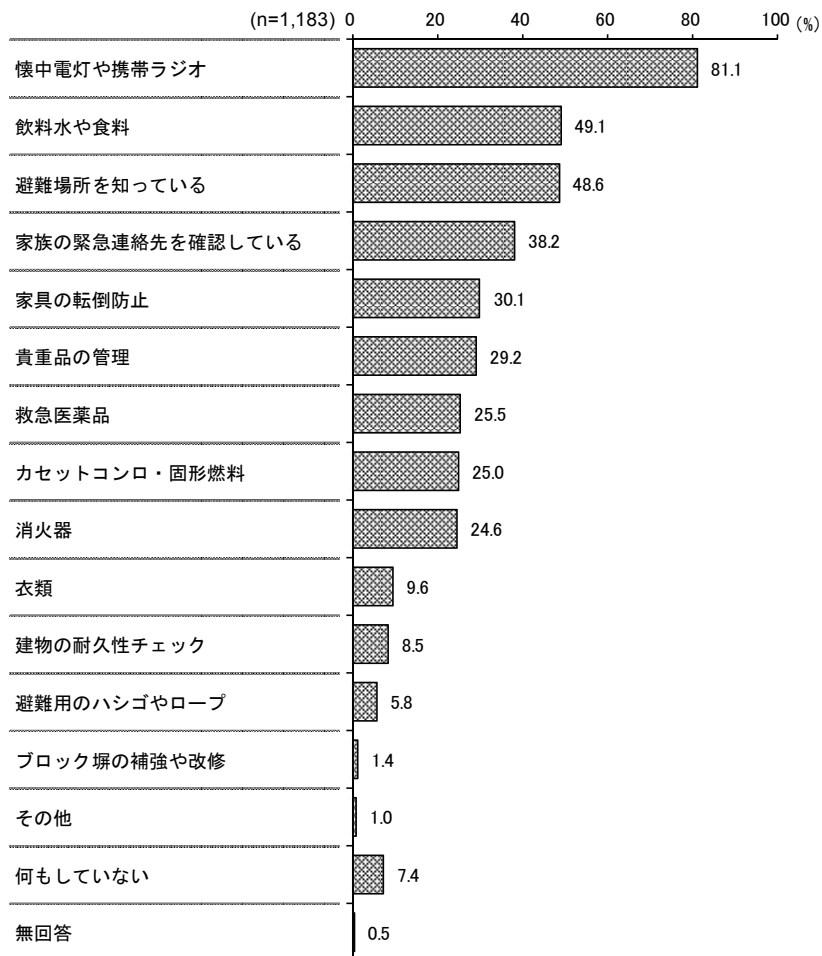
### (2) 満足していない理由



・「暮らし向きのこと」(26.9%) が 2 割半ばと最も多く、次いで「生活環境のこと」(20.5%)、「仕事のこと」(17.1%)、「住まいのこと」(11.1%) などの順となっている。

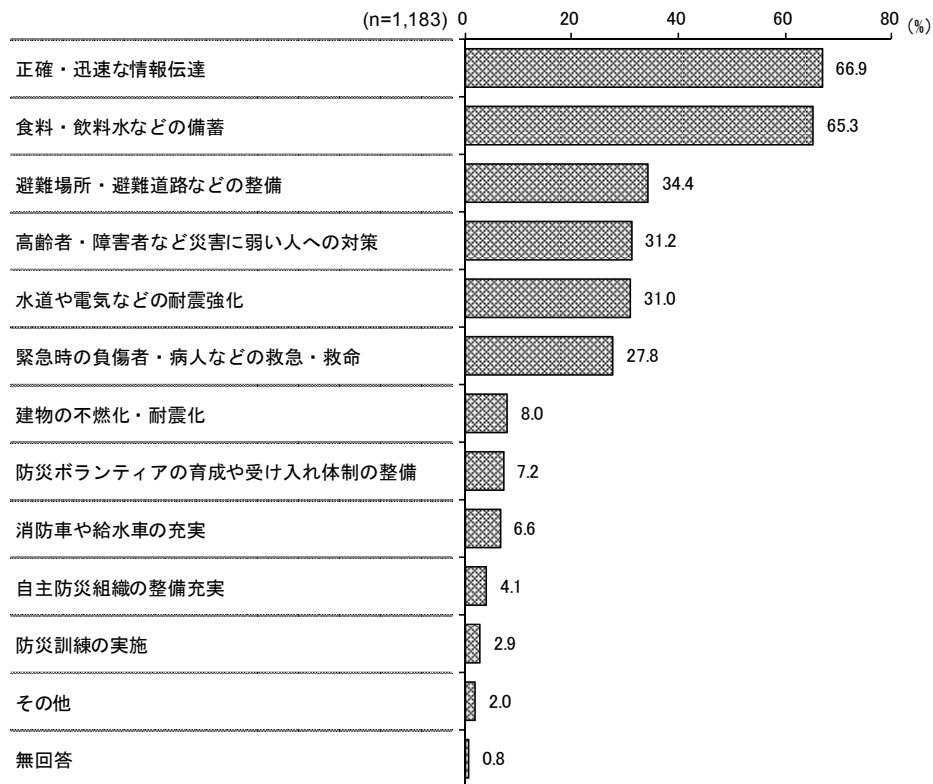
### 3. 災害対策

#### (1) 災害に対しての備え



- ・「懐中電灯や携帯ラジオ」(81.1%)が8割以上と最も多く、次いで「飲料水や食料」(49.1%)、「避難場所を知っている」(48.6%)、「家族の緊急連絡先を確認している」(38.2%)などの順となっている。

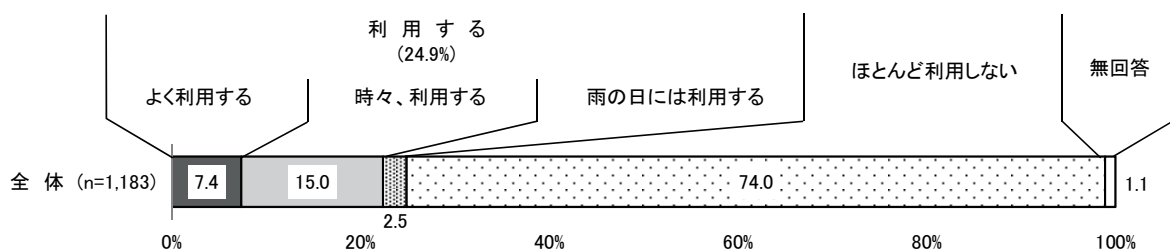
## (2) 市の災害対策



・「正確・迅速な情報伝達」(66.9%)が6割半ばと最も多く、次いで「食料・飲料水などの備蓄」(65.3%)、「避難場所・避難道路などの整備」(34.4%)、「高齢者・障害者など災害に弱い人への対策」(31.2%)などの順となっている。

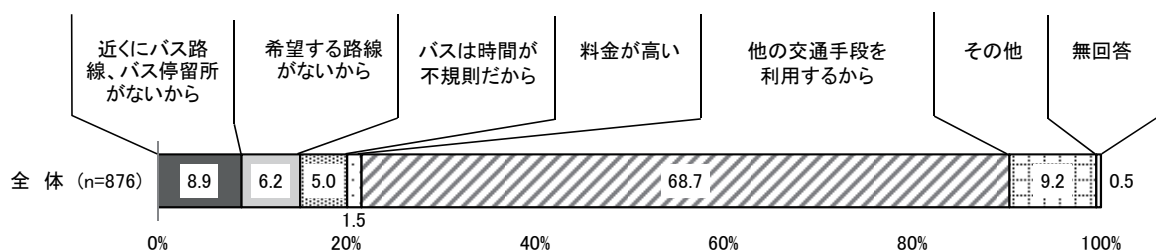
## 4. 日常生活

### (1) バス利用の有無



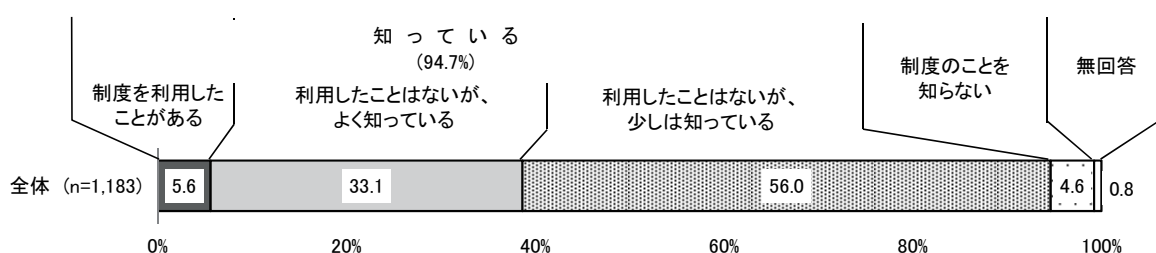
・「ほとんど利用しない」(74.0%) が7割半ばを占めている。また、「よく利用する」(7.4%)、「時々、利用する」(15.0%)、「雨の日には利用する」(2.5%)を合わせた『利用する』(24.9%)は2割半ばとなっている。

### (2) バスを利用しない理由



・「他の交通手段を利用するから」(68.7%) が7割近くと最も多く、次いで「近くにバス路線、バス停留所がないから」(8.9%)、「希望する路線がないから」(6.2%)、「バスは時間が不規則だから」(5.0%)、「料金が低いから」(1.5%)の順となっているが、いずれも1割未満となっている。

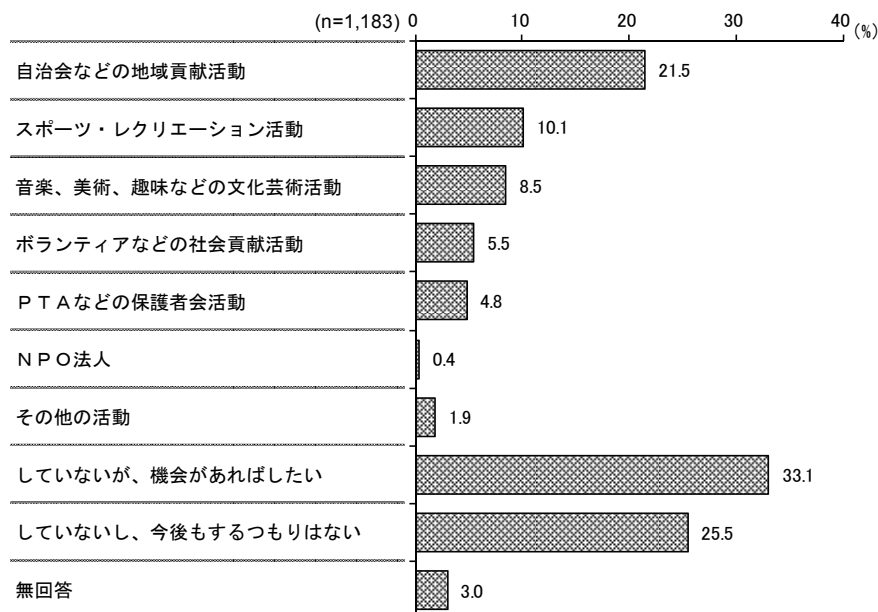
### (3) クーリングオフ制度の認知度



・「利用したことはないが、少しは知っている」(56.0%) が5割半ばと最も多く、次いで「利用したことはないが、よく知っている」(33.1%)、「制度を利用したことがある」(5.6%)の順となっている。また、これらを合わせた『知っている』(94.7%)が9割半ばと認知度は高くなっている。

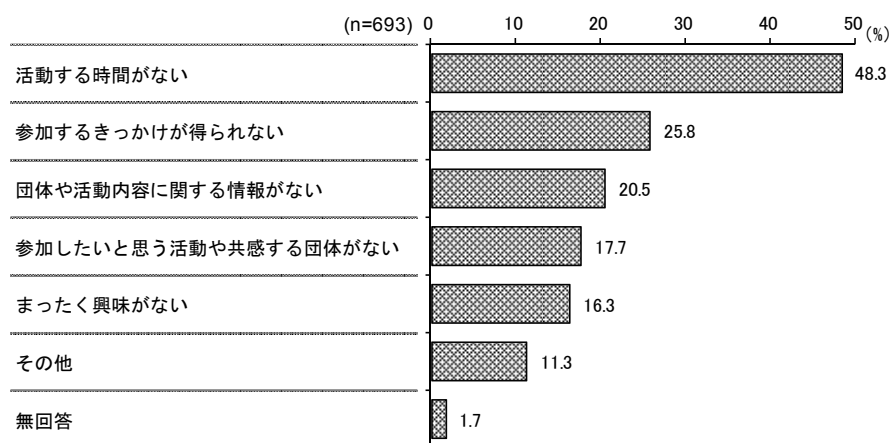
## 5. 地域活動・生涯学習

### (1) 行っている地域活動



・「自治会などの地域貢献活動」(21.5%)が2割以上と多く、次いで「スポーツ・レクリエーション活動」(10.1%)、「音楽、美術、趣味などの文化芸術活動」(8.5%)などの順となっている。また、「していないが、機会があればしたい」(33.1%)が3割以上、「していないし、今後もするつもりはない」(25.5%)が2割半ばとなっている。

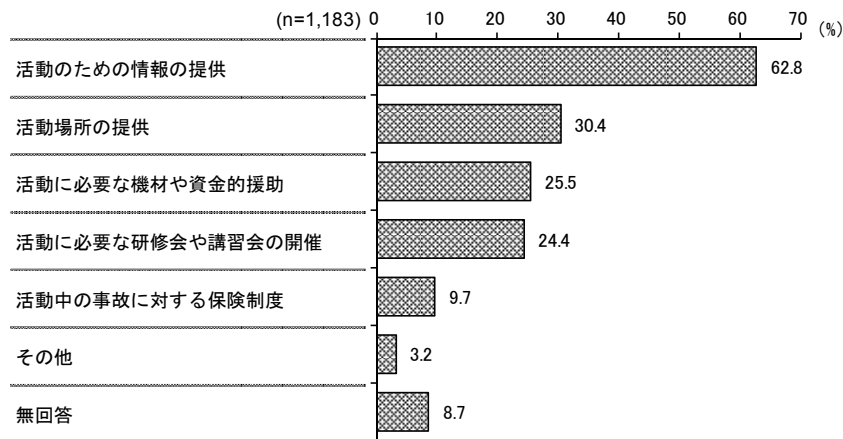
### (2) 地域活動に参加できない理由



・「活動する時間がない」(48.3%)が5割近くと最も多く、次いで「参加するきっかけが得られない」(25.8%)、「団体や活動内容に関する情報がない」(20.5%)などの順となっている。

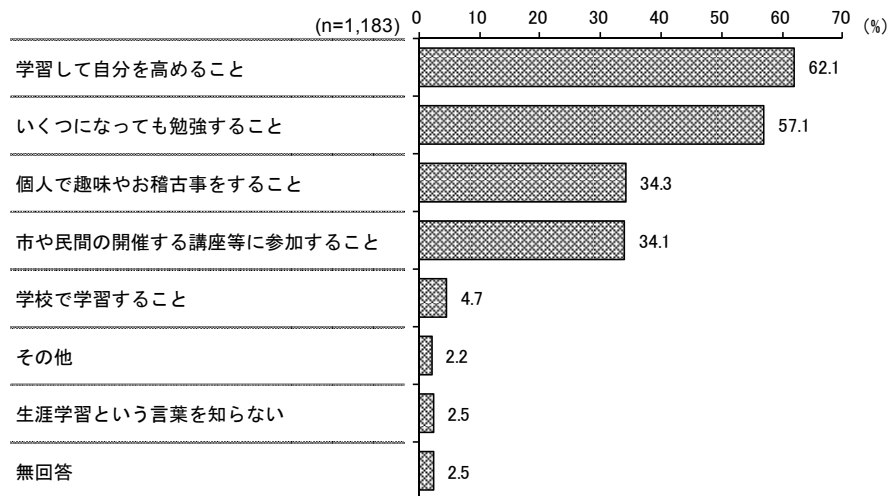


### (3) 市民活動のために市が力を入れるべきこと



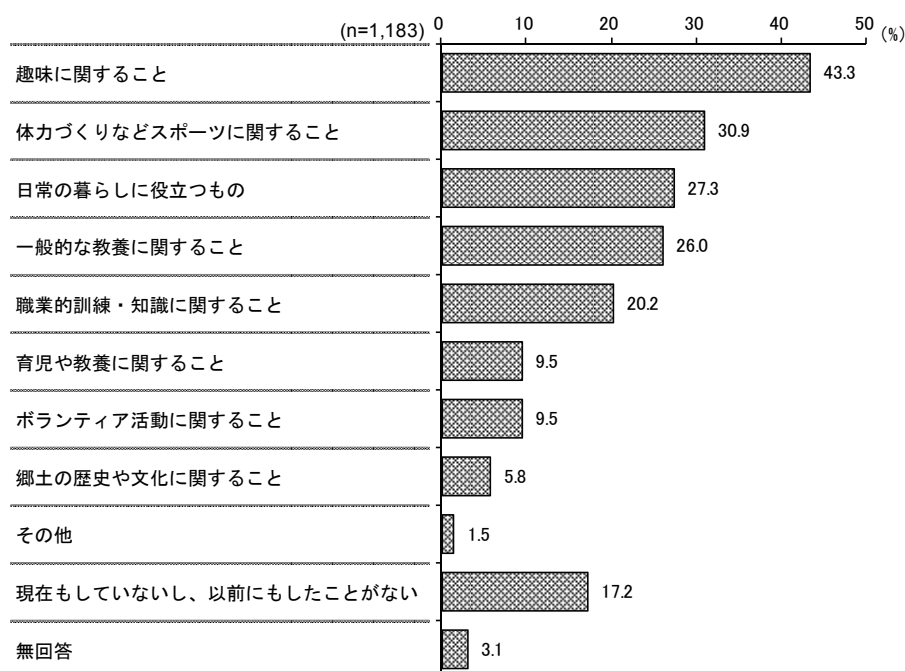
・「活動のための情報の提供」(62.8%)が6割を超えて最も多く、次いで「活動場所の提供」(30.4%)、「活動に必要な機材や資金的援助」(25.5%)、「活動に必要な研修会や講習会の開催」(24.4%)、「活動中の事故に対する保険制度」(9.7%)の順となっている。

### (4) 生涯学習の言葉のイメージ



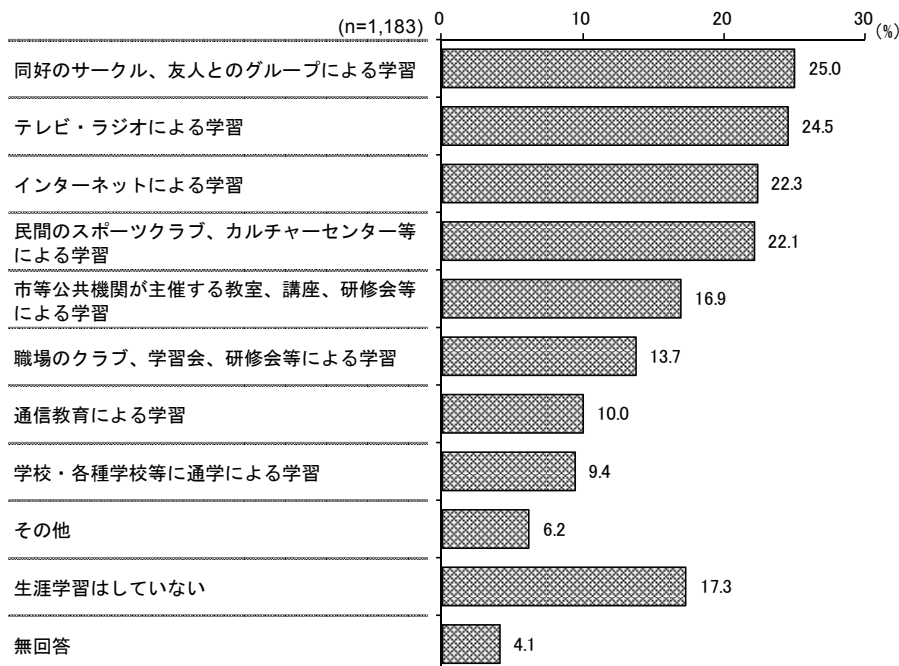
・「学習して自分を高めること」(62.1%)が6割を超えて最も多く、次いで「いくつになっても勉強すること」(57.1%)、「個人で趣味やお稽古事をする事」(34.3%)、「市や民間の開催する講座等に参加すること」(34.1%)、「学校で学習すること」(4.7%)の順となっている。

## (5) 行っている生涯学習



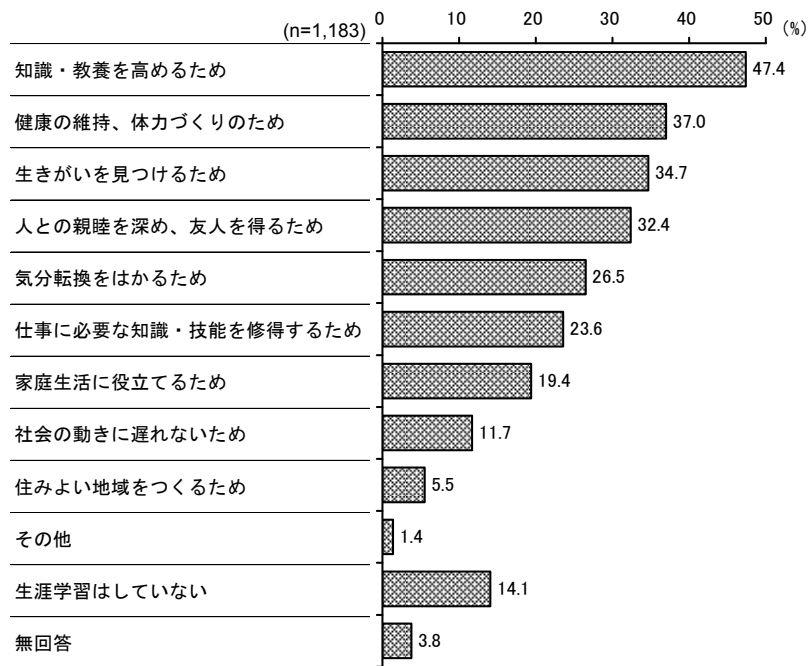
・「趣味に関すること」(43.3%)が4割を超えて最も多く、次いで「体力づくりなどスポーツに関すること」(30.9%)、「日常の暮らしに役立つもの」(27.3%)、「一般的な教養に関すること」(26.0%)、「職業的訓練・知識に関すること」(20.2%)などの順となっている。「現在もしていないし、以前にもしたことがない」(17.2%)は2割近くとなっている。

## (6) 生涯学習の学習方法



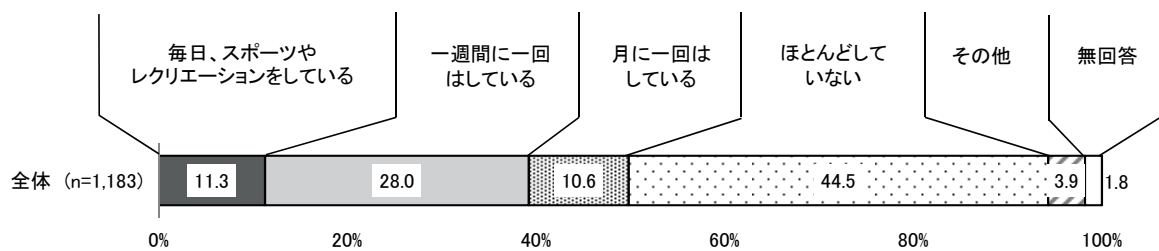
・「同好のサークル、友人とのグループによる学習」(25.0%)が2割半ばと最も多く、次いで「テレビ・ラジオによる学習」(24.5%)、「インターネットによる学習」(22.3%)、「民間のスポーツクラブ、カルチャーセンター等による学習」(22.1%)、「市等公共機関が主催する教室、講座、研修会等による学習」(16.9%)などの順となっている。

### (7) 生涯学習を行う目的



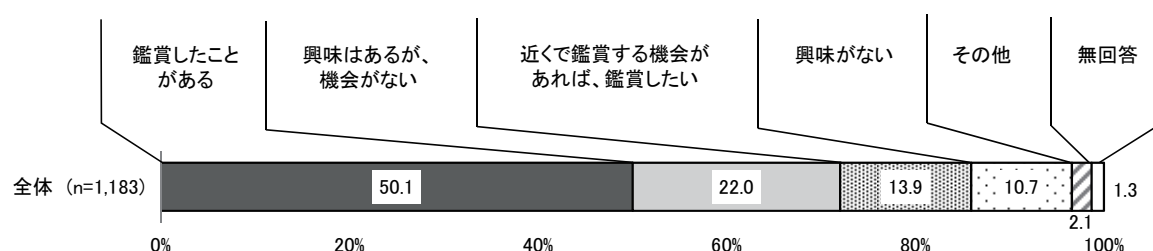
・「知識・教養を高めるため」(47.4%) が5割近くと最も多く、次いで「健康の維持、体力づくりのため」(37.0%)、「生きがいを見つけるため」(34.7%)、「人との親睦を深め、友人を得るため」(32.4%)、「気分転換をはかるため」(26.5%)などの順となっている。

### (8) スポーツやレクリエーションの頻度



・「ほとんどしていない」(44.5%) が4割半ばと最も多く、次いで「一週間に一回はしている」(28.0%)、「毎日、スポーツやレクリエーションをしている」(11.3%)、「月に一回はしている」(10.6%)の順となっている。

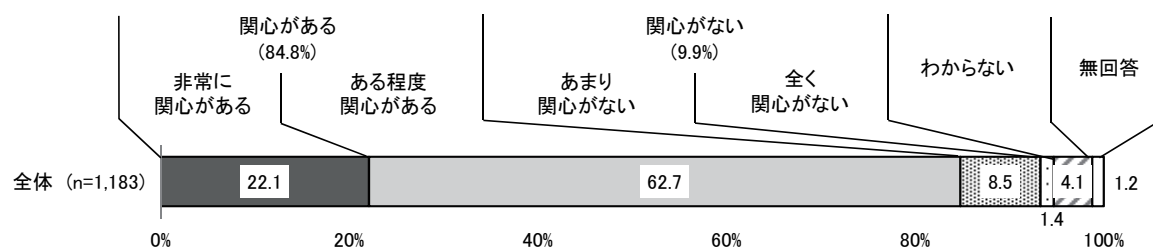
## (9) 音楽・演劇・美術の鑑賞頻度



- ・「鑑賞したことがある」(50.1%)が5割と最も多く、次いで「興味はあるが、機会がない」(22.0%)、「近くで鑑賞する機会があれば、鑑賞したい」(13.9%)、「興味がない」(10.7%)の順となっている。

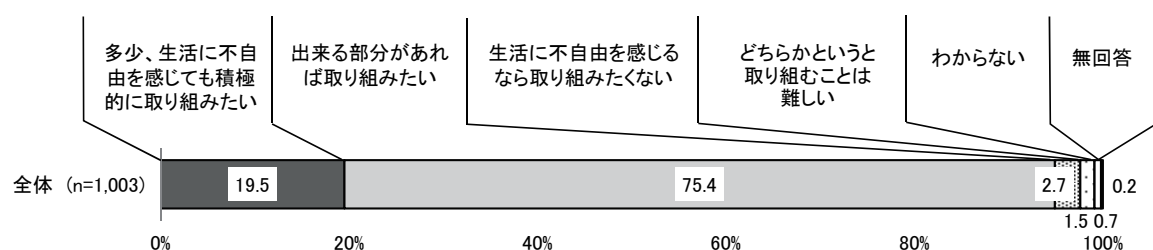
## 6. 環境

### (1) 地球温暖化問題への関心



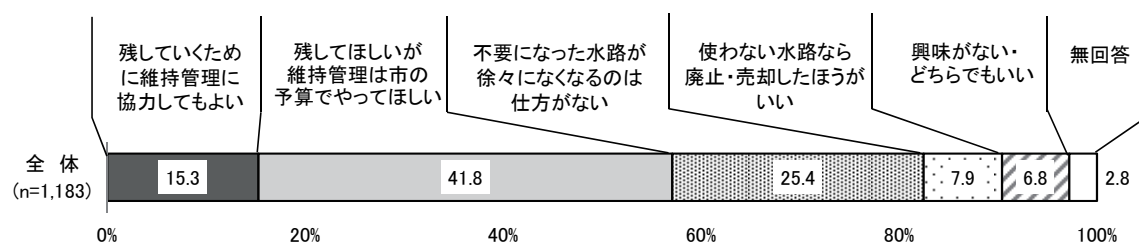
- ・「ある程度関心がある」(62.7%)が6割以上と最も多く、これに「非常に関心がある」(22.1%)を合わせた『関心がある』(84.8%)が8割半ばとなっている。一方「あまり関心がない」(8.5%)と「全く関心がない」(1.4%)を合わせた『関心がない』(9.9%)が約1割となっている。

### (2) 地球温暖化防止への取り組み



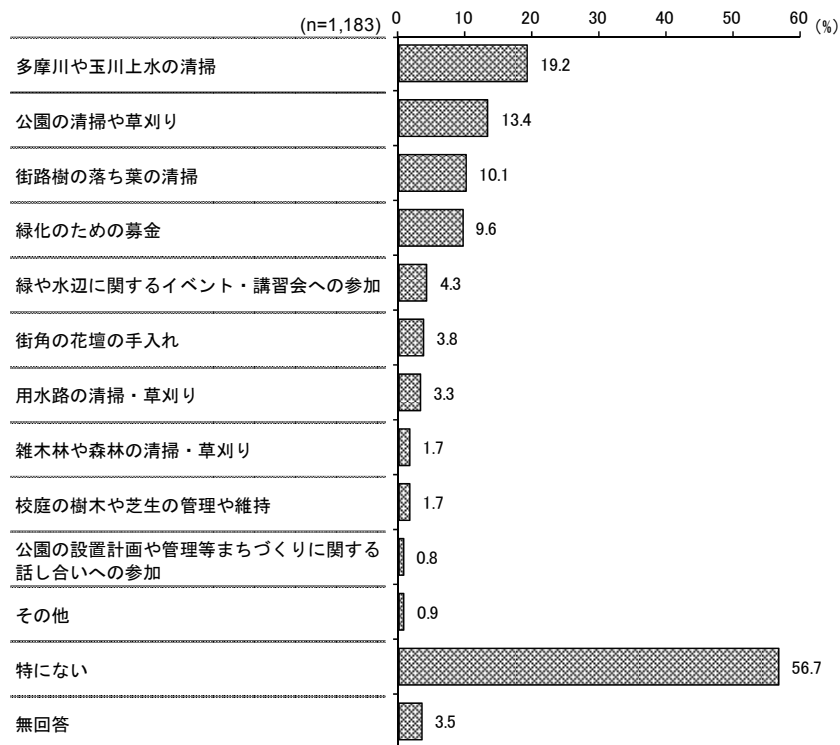
- ・「出来る部分があれば取り組みたい」(75.4%)が7割半ばと最も多く、次いで「多少、生活に不自由を感じても積極的に取り組みたい」(19.5%)、「生活に不自由を感じるなら取り組みたくない」(2.7%)、「どちらかというとなり取り組むことは難しい」(1.5%)の順となっている。

### (3) 農業用水路への関心



・「残してほしいが維持管理は市の予算でやってほしい」(41.8%)が4割以上と最も多く、次いで「不要になった水路が徐々になくなるのは仕方がない」(25.4%)、「残していくために維持管理に協力してもよい」(15.3%)、「使わない水路なら廃止・売却したほうがよい」(7.9%)の順となっている。

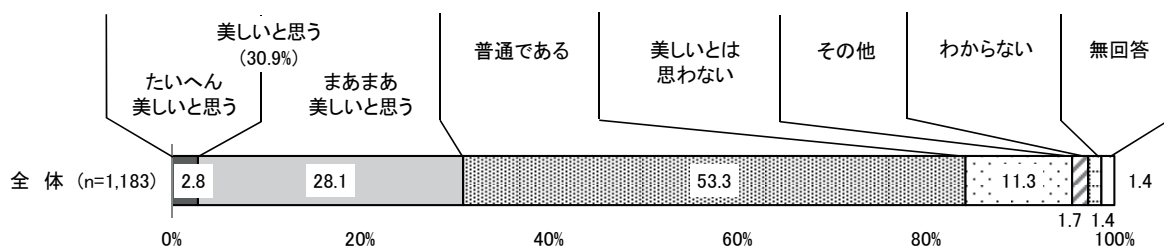
### (4) 水と緑に関する市民活動



・「多摩川や玉川上水の清掃」(19.2%)が2割近くと最も多く、次いで「公園の清掃や草刈り」(13.4%)、「街路樹の落ち葉の清掃」(10.1%)、「緑化のための募金」(9.6%)、「緑や水辺に関するイベント・講習会への参加」(4.3%)などの順となっている。一方、「特にない」(56.7%)は5割半ばと多くなっている。

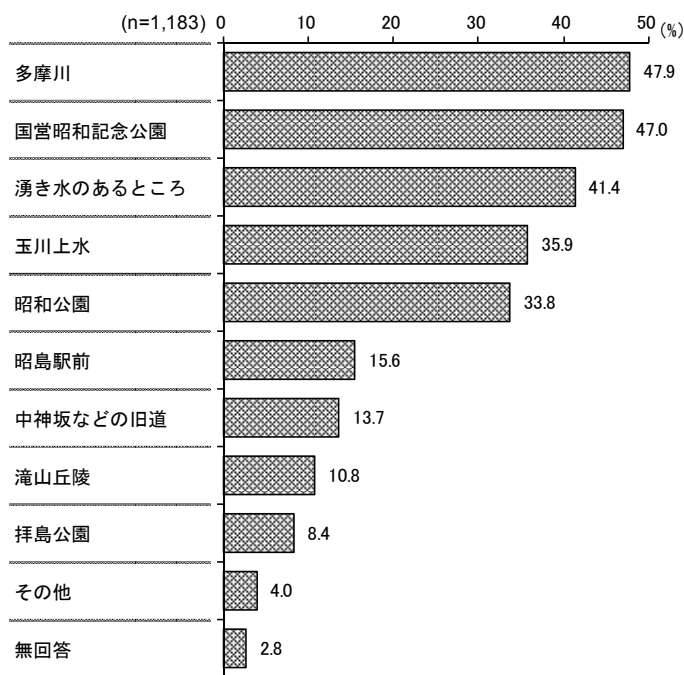
## 7. 都市景観

### (1) 街並みの美しさに対する意識



- ・「普通である」(53.3%) が5割以上と最も多くなっている。「たいへん美しいと思う」(2.8%) と「まあまあ美しいと思う」(28.1%) を合わせた『美しいと思う』(30.9%) が3割となっている。「美しいとは思わない」(11.3%) は1割となっている。

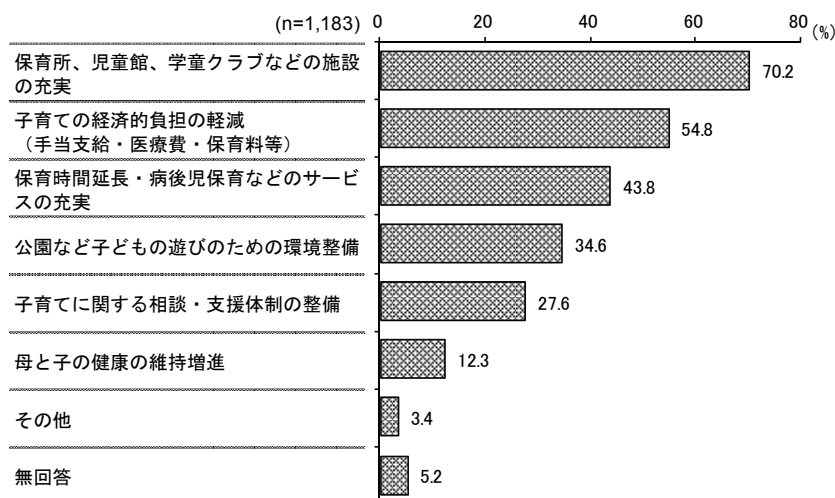
### (2) 昭島らしい街並みや景観



- ・「多摩川」(47.9%) が5割近くと最も多く、次いで「国営昭和記念公園」(47.0%)、「湧き水のあるところ」(41.4%)、「玉川上水」(35.9%)、「昭和公園」(33.8%) などの順となっている。

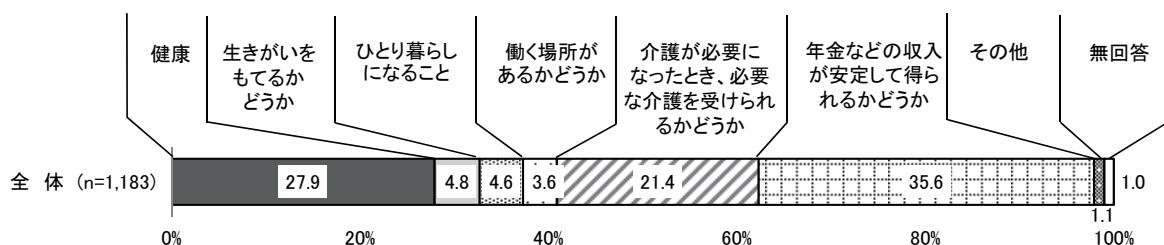
## 8. 少子高齢化

### (1) 子育てをしやすい環境作りに必要なこと



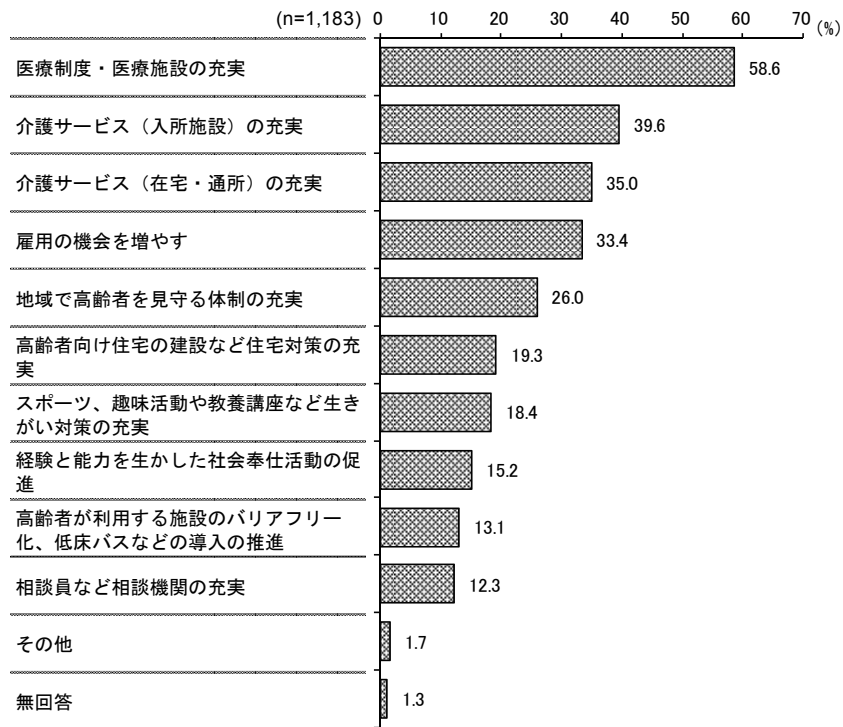
・「保育所、児童館、学童クラブなどの施設の充実」(70.2%)が7割と最も多く、次いで「子育ての経済的負担の軽減(手当支給・医療費・保育料等)」(54.8%)、「保育時間延長・病後児保育などのサービスの充実」(43.8%)、「公園など子どもの遊びのための環境整備」(34.6%)、「子育てに関する相談・支援体制の整備」(27.6%)、「母と子の健康の維持増進」(12.3%)の順となっている。

### (2) 老後について最も不安を感じること



・「年金などの収入が安定して得られるかどうか」(35.6%)が3割半ばと最も多く、次いで「健康」(27.9%)、「介護が必要になったとき、必要な介護を受けられるかどうか」(21.4%)の順となっている。また、「生きがいをもてるかどうか」(4.8%)、「ひとり暮らしになること」(4.6%)、「働く場所があるかどうか」(3.6%)は1割未満となっている。

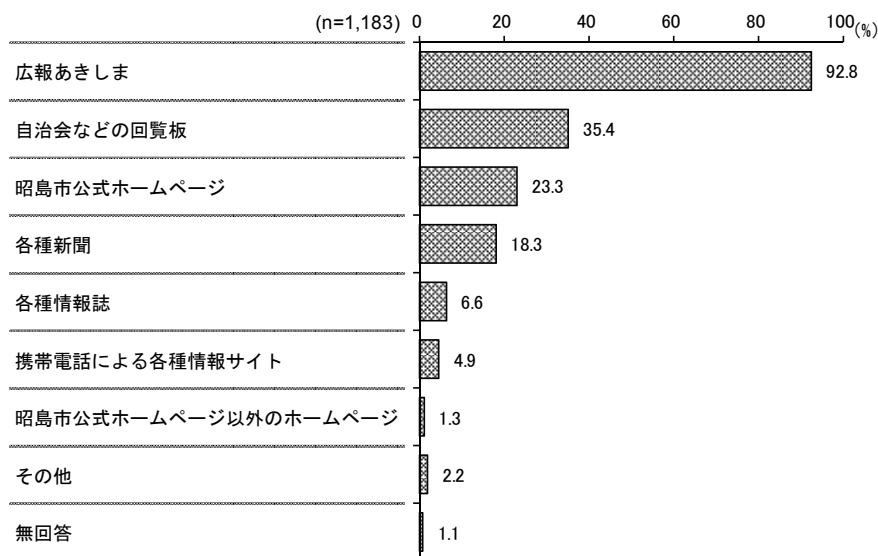
### (3) 高齢者のために重要な施策



・「医療制度・医療施設の充実」(58.6%)が6割近くと最も多く、次いで「介護サービス（入所施設）の充実」(39.6%)、「介護サービス（在宅・通所）の充実」(35.0%)、「雇用の機会を増やす」(33.4%)、「地域で高齢者を見守る体制の充実」(26.0%)、「高齢者向け住宅の建設など住宅対策の充実」(19.3%)などの順となっている。

## 9. 広報

### (1) 市に関わる情報の入手方法

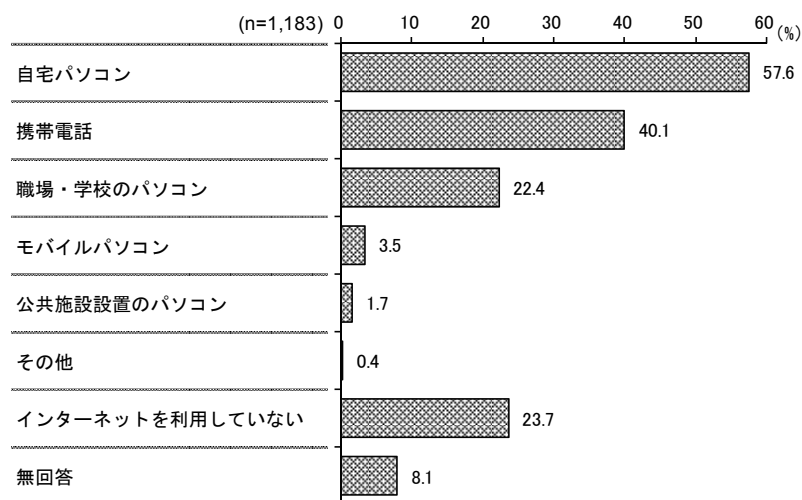


・「広報あきしま」(92.8%)が9割以上を占め、ほとんどの方の入手方法となっている。次いで「自治会などの回覧板」(35.4%)、「昭島市公式ホームページ」(23.3%)、「各種新聞」(18.3%)、「各種情報誌」(6.6%)、「携帯電話による各種情報サイト」(4.9%)などの順となっている。



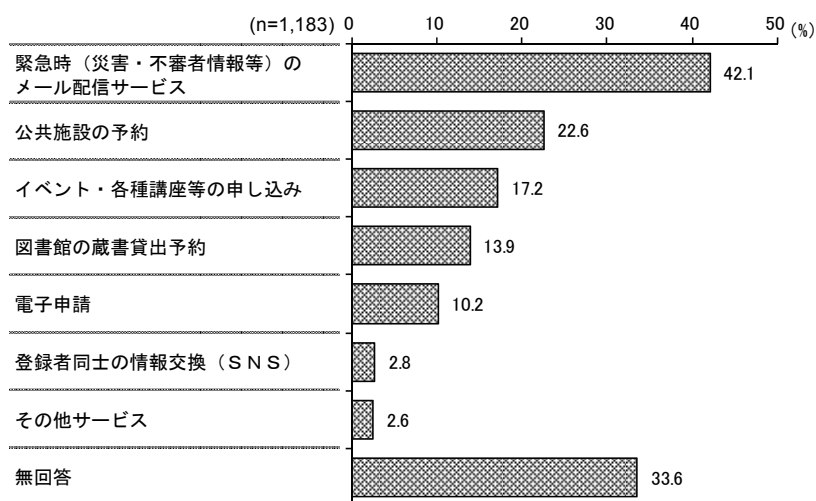
## 10. 情報化

### (1) インターネットの利用有無と利用環境



・「自宅パソコン」(57.6%)が6割近くと最も多く、次いで「携帯電話」(40.1%)、「職場・学校のパソコン」(22.4%)、「モバイルパソコン」(3.5%)、「公共施設設置のパソコン」(1.7%)の順となっている。また、「インターネットを利用していない」(23.7%)が2割以上となっている。

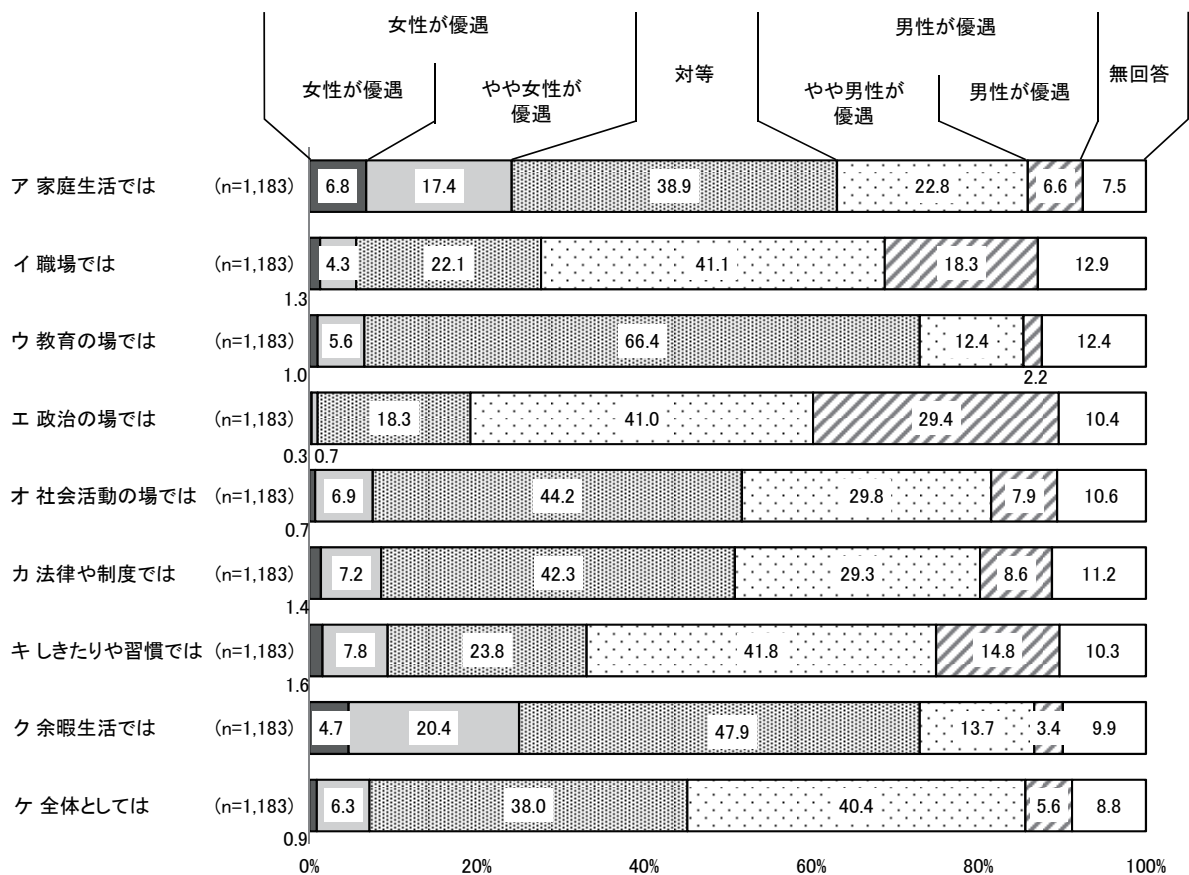
### (2) 自治体提供のインターネット利用サービスの利用状況



・「緊急時(災害・不審者情報等)のメール配信サービス」(42.1%)が4割以上と最も多く、次いで「公共施設の予約」(22.6%)、「イベント・各種講座等の申し込み」(17.2%)、「図書館の蔵書貸出予約」(13.9%)、「電子申請」(10.2%)、「登録者同士の情報交換(SNS)」(2.8%)の順となっている。

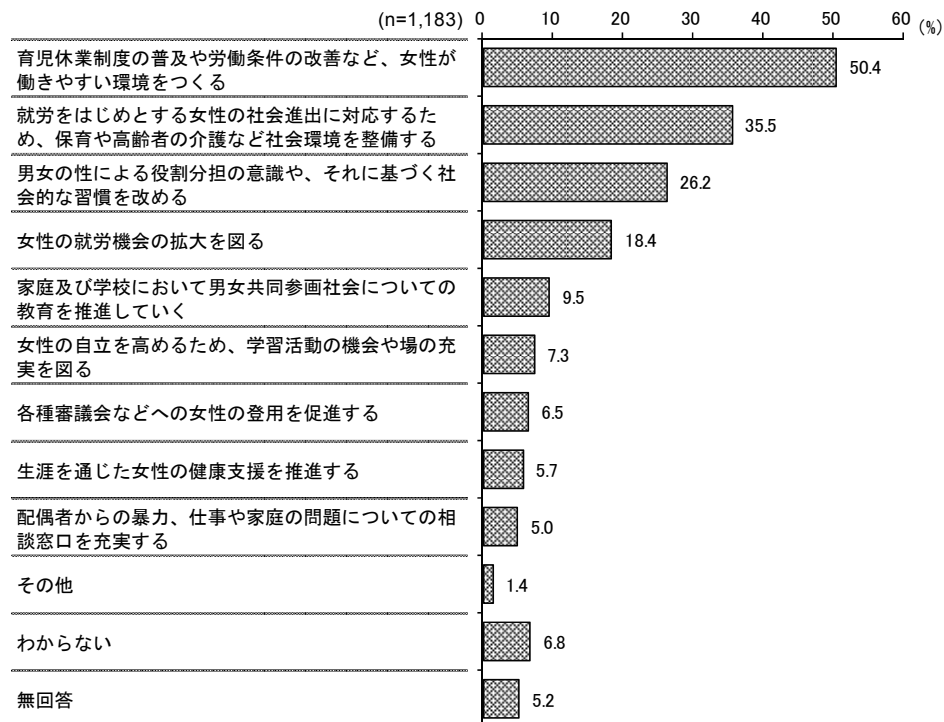
# 1 1. 男女共同参画

## (1) 男女の地位



・「男性が優遇」と「やや男性が優遇」を合わせた『男性が優遇』は、【政治の場】(70.4%)で7割、【職場】(59.4%)で6割近く、【しきたりや習慣】(56.6%)で5割半ばとなっている。「女性が優遇」と「やや女性が優遇」を合わせた『女性が優遇』は、【余暇生活】(25.1%)でのみ『男性が優遇』(17.1%)より多くなっている。「対等」は【教育の場】(66.4%)で6割半ばと多くなっている。

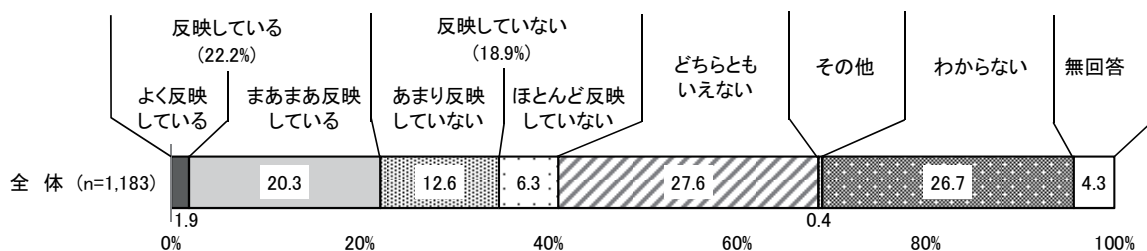
## (2) 女性の社会参画や地位向上に必要なこと



- ・「育児休業制度の普及や労働条件の改善など、女性が働きやすい環境をつくる」(50.4%)が5割と最も多く、次いで「就労をはじめとする女性の社会進出に対応するため、保育や高齢者の介護など社会環境を整備する」(35.5%)、「男女の性による役割分担の意識や、それに基づく社会的な習慣を改める」(26.2%)、「女性の就労機会の拡大を図る」(18.4%)、「家庭及び学校において男女共同参画社会についての教育を推進していく」(9.5%)などの順となっている。

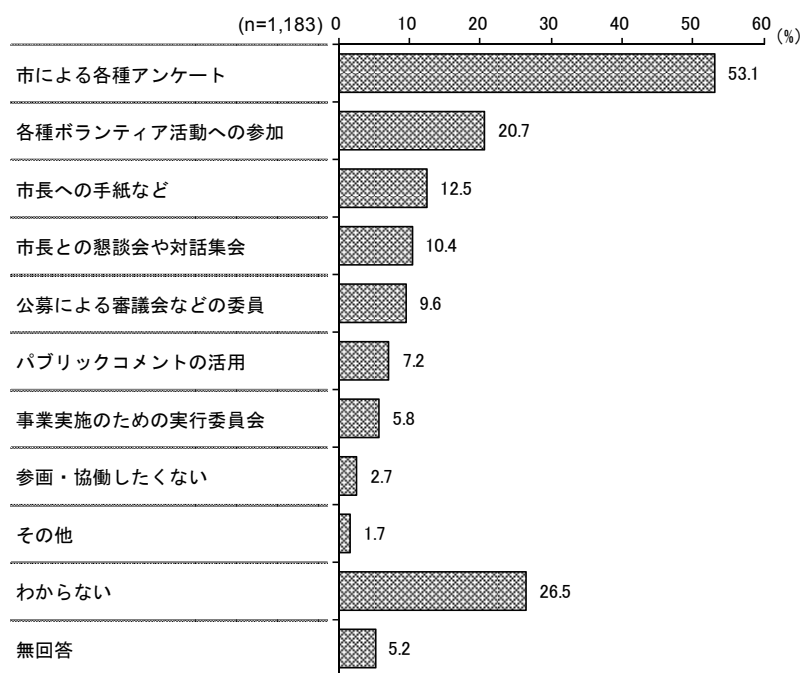
## 1 2 . 市政・市役所

### (1) 市民の声の市政への反映度



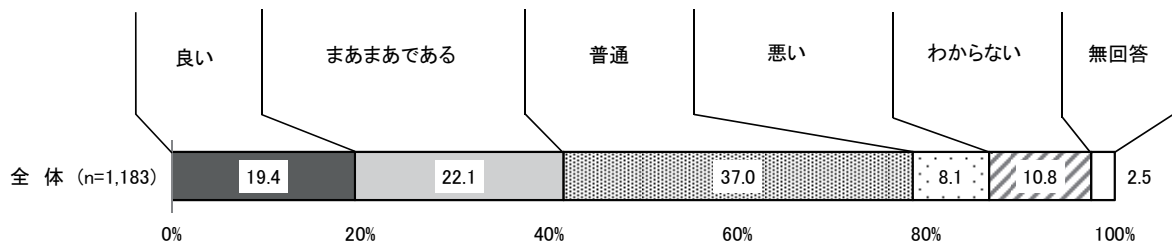
・「よく反映している」(1.9%)と「まあまあ反映している」(20.3%)を合わせた『反映している』(22.2%)が2割以上、「あまり反映していない」(12.6%)と「ほとんど反映していない」(6.3%)を合わせた『反映していない』(18.9%)が2割近くとなっている。また、「どちらともいえない」(27.6%)と「わからない」(26.7%)は2割半ばとなっている。

### (2) 市政への参画・協働のための方法



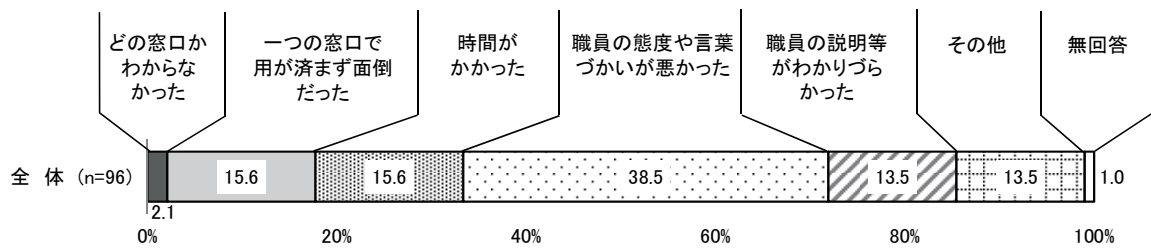
・「市による各種アンケート」(53.1%)が5割以上と最も多く、次いで「各種ボランティア活動への参加」(20.7%)、「市長への手紙」(12.5%)、「市長との懇談会や対話集会」(10.4%)、「公募による審議会などの委員」(9.6%)などの順となっている。

### (3) 市役所の窓口サービス



・「普通」(37.0%)が4割近くと最も多く、次いで「まあまあである」(22.1%)、「良い」(19.4%)の順となっている。また、「悪い」(8.1%)が1割未満となっている。

### (4) 窓口サービスが悪いと感じた理由



・「職員の態度や言葉づかいが悪かった」(38.5%)が4割近くと最も多く、次いで「一つの窓口で用が済まず面倒だった」(15.6%)、「時間がかかった」(15.6%)、「職員の説明がわかりづらかった」(13.5%)、「その他」(13.5%)の順となっている。

# 昭島市 市民意識調査 概要版

平成24年2月

---

発行 : 昭島市企画部秘書広報課

〒196-8511 東京都昭島市田中町一丁目17番1号

電話 042-544-5111 (代表)

調査実施 : 株式会社タイム・エージェント

---